



デイゴ。県民の投票により1967年「沖縄の花」に選定。

# きちきち ニュースレター

Vol.2

2013年10月

発行:公益財団法人日本YWCA 基地チーム

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 1-8-11

東京 YWCA 会館 302 号室

tel: 03-3292-6121 fax: 03-3292-6122

www.ywca.or.jp office-japan@ywca.or.jp

<みるきち>

ドキュメンタリー映画

## 標的の村

アメリカ軍・普天間基地が封鎖された日  
全国ニュースから抹殺されたドキュメント

東村高江区はヤンバルクイナやノグチゲラなど絶滅危惧種が数多く生息するヤンバルの森にあり、美しい山と川に囲まれる。しかし1952年サンフランシスコ講和条約締結後、沖縄は米国統治が続き、高江も米軍に土地を奪われ7200ヘクタールのジャングル戦闘訓練場に囲まれてしまった。

1964年東京オリンピックで沸く年に沖縄県高江の米軍北部演習場内にベトナムの村落を模したベトナム村が作られ、ベトナム戦争実戦直前の米軍の襲撃訓練に使われていた。そこで南ベトナム人の役をさせられていたのは高江の人々だった。映画『標的の村』には、ベトナム村周辺に枯葉剤を撒いたという元海兵隊員の証言も出てくる。

2007年1月、さらに6つのヘリパッド新設を知った高江区民は那覇防衛施設局に抗議をした。しかし「米軍の運用に関して日本は関知できない」と一方的な工事の通告がされる。この年の7月2日から住民による建設現場での座り込みが始まった。

オスプレイ配備について防衛局の回答はうやむやのまま、2012年6月13日米軍の「環境調査報告



書」が公表され、県民は初めて訓練の内容を知った。高江のヘリパッドはオスプレイが使うと明記されていた。高江に列をなす工事車両と住民、9月9日怒りの県民大会、そしてオスプレイ配備が迫る9月27日から10月1日普天間基地の大山ゲート、野嵩ゲートに何台も車を停めて座り込む市民を映画は追う。高江の住民も子どもたちとやってきた。

オスプレイの沖縄配備と「タカミザワ文書」、辺野古基地計画の目的、座り込みという市民的不服従を示した市民を国が訴える裁判の理不尽。映画『標的の村』を見て考えたい。

長谷川りゑ子(基地チームメンバー)

\*『標的の村』チラシ・ポスターは日本YWCA事務所にもあります。必要な方はご連絡ください。

2013年、91分 ドキュメンタリー

監督:三上智恵、プロデューサー:謝花 尚、

制作・著作:琉球朝日放送 配給:東風、

2012年度テレメンタリー年間最優秀賞/第18回平和協同ジャーナリスト基金奨励賞/ギャラクシー賞テレビ部門優秀賞、他

各地の上映情報 <http://www.hyoteki.com/>

■あなたの街で『標的の村』の上映会を開いてみませんか?

一緒に見て、一緒に考える上映会は、新しい出会

いや語らいの場・地域コミュニティとのつながりを生み出します。初めての方でも上映会を開催できるように『標的の村』上映会係がサポートしてくれます。まずはお気軽にお問い合わせ下さい。

\* ホームページに、自主上映会情報も有ります。

お問合せ・申込先: 合同会社 東風 上映会係  
〒160-0022 東京都新宿区新宿 5 丁目 4-1 新宿 Q  
フラットビル 306 号室  
TEL: 03-5919-1542 (平日 11:00~18:00)  
FAX: 03-5919-1543 E-mail: info@tongpoo-films.jp  
http://www.hyoteki.com/jyouei/

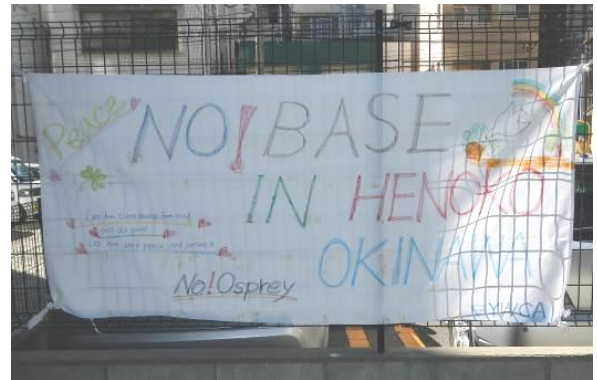


## <やるきち> 辺野古への 基地移設反対のバナー みんなで作って送りました!

福岡 YWCA



9月6日に、小さなお子さんを持つ女性のグループ「あすなろプロジェクト」と共催で勉強会「日本国憲法、読みなおしませんか」を行いました。その2部として「沖縄・辺野古の浜へ、平和バナーを送ろう」作成タイムを実施。参加者には辺野古での座り込みの事をご存じない方も多かったのですが、皆さん趣旨に賛同して思い思いのメッセージを書きました。お子さんの服に書いて持参された方もいました。「遠くの方にも心を寄せるという大切なことを改めて学んだ」との感想が寄せられました。沖縄や被災地の一人ひとりの方に本当に心を寄せているだろうかと自らに問いつつ日頃の活動をしなければとの思いを新たにしました。(福岡 YWCA 総幹事 野崎千代)



### 辺野古へバナーを送りましょう!

バナーは米軍兵士により廃棄されてしまいますが、基地移設に反対するテント村の人々はそのたびに新しいバナーを貼りに行きます。基地に反対する皆さんの気持ちを託して辺野古の浜に寄せる波のように繰り返し送りましょう!

1. 布の大きさは自由
  - \* ハンカチや古いシャツ、Tシャツも OK☆
  - \* 大きい方がインパクトがあります。
2. メッセージを書く
  - \* 布いっぱい思いを込めてください。
  - \* 英語表記の方が米兵に直接伝わりやすく影響力が増します。

3. 沖縄辺野古に送る

【送付先】〒905-2171

沖縄県名護市辺野古「座り込みテント村」行  
送付者お名前(または団体名)と連絡先も記載ください。

【運営責任団体】ヘリ基地反対協議会



## <いくきち>

### 岩国に行ってきました

大久保生子(基地チーム長)

「ひろしまを考える旅」のオプションツアーとして最終日の8月9日(金)に岩国を訪れた。広島から山陽本線で約1時間。岩国駅には市議会議員で「ピースリンク岩国」代表の田村順玄さんが出迎えてくださり、岩国教会牧師の大川清さんが運転してくださる幼稚園バスに乗りこんだ。

最初に向かったのは愛宕山。かつては、広葉樹と竹林に覆われたなだらかな丘陵で、山頂の愛宕神社と鎮守の森は市民の憩いの場所だったそうだが、現在は山はごっそりと削られて鎮守の森の面影はなく、神社は立て替えられてピカピカに光っている。大きな国立病院と老人ホームも建ったばかり。

これは18年前から進められてきた、愛宕山地域開発事業によるものだ。当初の目的は、騒音対策として米軍岩国基地を沖合に移設するための埋立用の土砂搬出と、その跡地を病院や住宅地にするためだった。ところが途中から、厚木から空母艦載機が移駐されて米兵も戦闘機も倍に増えること、市民のためだったはずの住宅用地は米軍兵士用の住宅用地にするため国に買収されてしまった。

切り崩され開発された土地にはフェンスが張られ、「国有地につき立ち入らないでください」という看板が建つ。周囲の家々には、「愛宕山に米軍住宅はいりません」と書かれた黄色い幟がはためいている。

その後、基地に近づくため港へ移動する。この時はちょうど、追加配備のオスプレイ10機が沖縄の普天間基地への移設を前に岩国基地に駐機していた。岸壁には、田村さんの仲間やマスコミが点在してカメラを構え、いつ飛び上がるかわからないオスプレイをじっと待ち構えていた。真夏の日差しをさえぎるものは一切なく、まさに炎天下。彼らを見張る警察官も暑そうにしていたが、私たちの乗る幼稚園バスを見ると文句をつけに来た。「あんまり先まで行くのはダメですよ」「すぐそこまでですから」。警察をかわしながら大川さんは岸壁の先端までバスを走らせる。オスプレイまで数十メートルというところに迫るが、



長居はできずに引き返す。帰りにもまた、警察が走り寄ってくる。「ダメだって言ったでしょう」「すみません」。どうやらこの幼稚園バスは目をつけられているようだ。文句を言われないうちまで戻りしばらく基地を見ていた。結局オスプレイは飛ばなかったが、時々米軍ヘリや自衛隊機が飛んでくる。ここから見るとやはり大きい。

帰りに、歴史的な名勝、錦帯橋に寄ってくださった。水辺で涼んでいるとピタリと風が止んだ。瀬戸内海に多い夕凧(ゆうなぎ)という現象だそうだ。真夏の日差し、おだやかな海、名産のハスの白い花がゆれていて錦帯橋と錦川に見惚れていると、基地問題など忘れてしまいそうだ。駅までの帰り道、街中を走っていたら突然、米軍基地の入り口と星条旗が見えた。少し古ぼけた周囲の町並みからは浮きあがりドキリとした。

岩国は戦前から工業で栄え、広島と並ぶ軍都であった近代史を持つ。そして現在、岩国基地では急ピッチで改良工事や新設工事が進んでおり、極東最大の軍事拠点となるのではないかという危惧がでてきている。基地問題は予断を許さない問題となっていることを、改めて感じさせられる訪問だった。

#### ◆Web サイト「行動の写真集」ぜひご覧ください。

岩国や広島を中心とした反基地運動や平和運動の様子が写真で記録されています。

<http://tomura.lolipop.jp/index.html>

鮮明で大きな写真は自分もそこにいるような錯覚を覚えるほど迫力があります。

◆岩国の人々は現在、基地に関する3つの訴訟を起こして闘っています。それぞれ、「空の裁判」(爆音訴訟)、「海の裁判」(沖合移設承認取消請求訴訟)、「山の裁判」(愛宕山開発取消請求訴訟)といます。この秋に判決が出される予定なので、こちらにも注目してください。

<いくきち>

札幌 YWCA 主催

## 沖縄ツアーご案内

ぜひご参加ください！

【日時】2013年11月8日(金)～11月11日(月)

\* 現地集合・現地解散

\* 11月8日(金) 集合場所: ホテル国際プラザ  
ロビー(那覇市松尾1-4-10)

【場所】那覇市・沖縄南部、他

【参加費】20,000円

\* 出発前のキャンセルでもお支払済みの参加費は返金できませんので、ご了承ください。

【定員】19名(先着順)

【申込締切】2013年10月30日(木)

【プログラム】

★11月9日(土): 講演会(講師 平良修さん)・現地見学(嘉数高台・辺野古等)・沖縄YWCA交流会

★11月10日(日): 現地見学(本当南部へ: 南風原病院豪、ひめゆり他)・話し合い=都合により場所の変更等がある場合があります。ご了承ください。

【お問合せ先】札幌YWCA

TEL・FAX 011-728-8090 e-mail: sapporo@ywca.or.jp  
〒060-0807 札幌市北区北7条西6丁目 北海道クリスチャンセンター内

【主催】札幌YWCA (担当: 伊藤早織)

☆講師紹介: 平良 修さん

現在、日本基督教団沖縄教区無任所教師、日本基督教団宮古島伝道所牧師代務者、学校法人相愛学園理事長、一坪反戦地主会代表世話人、NPO法人・沖縄恨之碑の会理事、辺野古の座り込み人、その他。著書『沖縄にこだわりつづけて』(1993年・新教出版社)・『小さな島からの大きな問い』(1998年・新教出版社)・共著『27度線の南から—沖縄キリスト者の証言』(1971年・日本基督教団沖縄教区)

世界YWCA会長が来日、  
軍事基地問題に関して意見交換しました



10月10日(木)、デボラ・トーマス・オースティン世界YWCA会長=写真左=とキャロライン・フラワーズ会計役員=写真右=が来日、午前中は現地の市民グループの方の案内で横須賀米軍基地周辺を見学、午後は東京YWCA会館にてYWCAメンバーと懇談しました。大城美代子・沖縄YWCA会長から基地をめぐる状況について聞き、米国出身のキャロラインさんは「軍事基地の問題は女性への暴力の問題であり、世界YWCAや米国YWCAのメンバーにもこのことを伝えたい」、またデボラ会長は「女性への暴力の撤廃は世界YWCAの主要課題であり、基地問題は世界YWCA全体の課題とし得る」と語り、今後の協働について意見を交換しました。

沖縄YWCAの賛助員になって

ニュースレター「うーまん世」を読む

沖縄に度々行くことができなくても賛助員として沖縄YWCAの活動をサポートすることができます。

「うーまん世」を通して、基地をめぐる状況がわかるほかコラム「なるほど沖縄」など毎回読みごたえがあります。

★沖縄YWCA賛助会費 年間1口3,000円

振込先: (郵便振替) 沖縄YWCA

口座番号: 01720-6-101156

★お問い合わせ先: okinawaywca@yahoo.co.jp